



# 園だより

令和6年7月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

7月2日のプール開きを前に、5歳児クラスがプール掃除をしました。素足に伝わる水の冷たさに最初のうちははしゃぎ気味でしたが、スポンジで磨いていくうちに「ここもきれいにしたい」「あっちも磨かなくちゃ」と真剣さを覗かせるようになり、洋服がかなり濡れるほど張り切っていました。幼児クラスの仲間入りをし、今年度よりプールに入る3歳児クラスから「きれいにしてくれて ありがとう」と声をかけられると「どういたしまして」と少し大人びた口調で返しますが、不意にかけられた言葉に戸惑いもあったのか、友達と顔を見合わせて「ふふ…」と照れ笑いしていました。

自分の行動によって誰かを助けることが出来たり、喜んでもらったと思える経験が自らの喜びにもなり、意欲や有能感、自己を肯定する気持ちが育まれていきます。例えば、食育活動で皮を剥いたり切ったりした野菜が給食の一品として提供され「上手に剥けたね」「とても美味しかった」等の感謝の言葉に触れることで、その子自身の食に向かう姿が変化していくということもあります。ささやかな日常ですが、様々な場面に「ありがとう」が行き交い、子どもたちが「大切にされている自分」「ありのままを認められている喜び」を実感できるように、丁寧な保育の積み重ねをしていきたいと気を引き締める思いです。

毎年、公立保育園のプールを、自園でプールを持たない私立園等に開放する『ヒーロープール事業』が今年度も行われます。他園の園児を迎え入れながら、交流を通して成長していく姿にも期待を寄せる夏です。

水遊び開始 (0・1・2歳児クラス)

プール開き (3・4・5歳児クラス)

中旬 身体計測・避難訓練



さくら組 (3歳児クラス)

絵の具を使った制作をしている時のことです。  
きみどり色と緑色の絵の具を混ぜ合わせながら…  
「きみどりとみどりをあわせたら、みどりみどりだね」

## 子どもたちとの会話からもらう 幸せの時間

すみれ組 (4歳児クラス)

おうちで生き物を飼っているか、子どもたちに聞いた時のことです。

保育士：「お家で生き物を飼っているかな」

子ども：「うん、飼ってる。草 飼ってるんだ」

保育士：「どんな草なの」

子ども：「観葉植物だよ」

“飼っている”と“育てている”がごちゃ混ぜになっているのですが『観葉植物』という少し難しい言葉を知っていることに驚きながらも、可愛いなと感じた瞬間でした。



### つぼみ組（0歳児クラス）

保育士が湿った砂で団子を作り保育士の手のひらにのせて見せると、興味を示して触っています。砂が手につくと少し驚き、じっと見つめているので「お砂が手についたね」と言葉にすると、保育士の顔を見た後にもう一度自分の手を見つめ、手と手を打ちつけて感触を確かめています。児童遊園で砂に触れ楽しんできたことですっかり慣れ、今では自ら砂場に向かい、体全体で砂を押ししたり崩したりして楽しんでいます。友達が遊んでいる姿を見て興味がわき、手を伸ばして触れてみようとする子もいます。

子どもたちが初めて何かに触れる時の感触の不思議さ、楽しさ、心地良さ、不安な気持ち等に共感しながら慣れ親しんでいけるように関わっていきます。



### たんぼぼ組（2歳児クラス）

バケツを持ってきて「お水ちょーだい」と言いながら、嬉しそうに泥水を作り始める子どもたちです。ドキドキしながら泥水の中に両手を入れた瞬間ぱっと表情が変わり、手から伝わる感触に「つめたいね〜」「きもちいいね〜」と友達と目を合わせて言葉を交わしているのが聞こえてきます。バケツから出した手が真っ黒なのを見て「あはは」と大笑いしています。泥をたくさんつけた手で保育士とハイタッチを試みたり「おばけだぞ〜」と友達同士ではしゃいでみたり、泥遊びに留まらない楽しさを見つけています。

砂や水、泥、泥水、それぞれの感触や変化、冷たさや心地良さに気づき、友達や保育士と興味関心の赴くままに試しながら思い切り遊びます。



## 見て・さわって・心おどる

### 感触あそび



### ちゅうりっぷ組（1歳児クラス）

容器に出した『指絵の具』を“なんだろう”と見つめ、人差し指でツンツンと触れてみている子がいました。触れているうち絵の具が指から手のひらへと広がり、手いっぱい色がつくと「みて〜」と保育士に知らせていました。「緑色だね。きれいだね」と応じると嬉しそうに笑っています。保育士も手に絵の具をつけて「ぺったん」と模造紙に手形をつけてみると、子どもたちも「ぺったん」と言いながら色をつけます。模造紙から手を離す時に紙が手に張り付いてくると、その感覚が楽しくて、模造紙を叩いたりしながら手のひら全体を使って楽しんでいました。

一人ひとりの楽しみ方は異なりますが、いろいろな素材を通してどの子どもも満足出来るような感触遊びを今後も取り入れていきます。

